


知って得する！話題のトレンドワード(第21回)

## ポイント解説！スッキリわかる「大退職時代(グレート・レジグネーション)」

2024.12.26



いま話題のトレンドワードをご紹介します本企画。第21回のテーマはスッキリわかる「大退職時代(グレート・レジグネーション)」です。言葉の意味、そしてその背景や関連する出来事を解説していきます。みなさまのご理解の一助となれば幸いです。



**『業務効率化・コスト削減』でお悩みの方に  
おすすめ資料をご紹介します！**

資料ダウンロードはこちら >

「大退職時代」(グレート・レジグネーション、Great Resignation)は、アメリカにおいて2021年から2023年初頭にかけて、記録的なペースで自主退職者が増えた現象のことです。米国労働統計局によると、2021年の退職者は4780万人。月間のピークは11月の450万人で、1カ月で労働力人口の3%が退職した計算です。2022年は月間400万人を超える高水準で推移、2023年初頭まで続きました。

背景には、世界を襲ったコロナ禍において、多くの人々が働き方や自身の価値観を見直したことにあるとされます。例えば、リモートワークの推進で、毎日オフィスに通う、会議室に集まり会議をするなどの「習慣」に疑問を持ち、「今までと同じ働き方でなくていいかもと感じた」という具合です。これに加えアメリカでは、政府によるコロナ禍対策での巨額の経済対策による好景気により、労働者にとって売り手市場の傾向が強まり、皆がさらなる良い仕事を探そうと、かつてないほど転職・退職者が急増した、というわけです。

日本においては、コロナ禍以前から、働き方改革などにより終身雇用制度の崩壊をはじめ、労働市場の変化がじわじわと進んでいました。これに加えコロナ禍での変化の中で、働き方や生き方について考える方が増えたとされます。また、「人生100年」といわれる時代、会社中心から人生中心の考えに移行する傾向は大きく、よりよい人生を求めての転職や起業、兼業・副業、フリーランスへの転向など、新しい生き方・働き方を模索する人も増加傾向です。人手不足を抱える多くの企業においては、離職防止や優秀な人材の確保のためにも、新しいスタイルに対応していく必要があります。

関連する出来事などの背景… 続きを読む